

皮膚科臨床実習の手引

グループ		番号		氏名	
------	--	----	--	----	--

北海道大学医学部皮膚科学教室

Department of Dermatology

Faculty of Medicine and Graduate School of Medicine

Hokkaido University

ホームページ <http://www.derm-hokudai.jp>

はじめに

皮膚科学は、皮膚に病変がある疾患全てをみつかる「眼でみる」総合臨床医学です。したがって皮膚科医には皮膚疾患の知識はもちろんのこと、内科的知識、外科的技術、病理診断能力が要求されます。すなわち皮膚科医は内科医でもあり、外科医でもあり、皮膚病理の専門家でもあるわけです。

皮膚科が取り扱う疾患は、純粹に皮膚に限局している病気のみならず、全身疾患の部分症状として皮膚病変が出現している場合も少なくありません。また皮膚癌などに対しては植皮術、皮弁などを用いた外科的手術が必要なことは言うまでもありません。皮膚科にとって外科系の要素も重要であることが容易に想像されると思います。視診や Dermoscopy だけでは診断が困難な場合は一般臨床検査に加えて皮膚生検を行い、光顕、電顕、免疫組織学的所見により診断確定することも頻繁に行われます。すなわち皮膚科はマクロとミクロが巧く噛み合った、非常に合理的な「Medical Science」なのです。

1週間という限られた実習期間内にこれらをすべて体験、理解することは不可能です。しかし1週間の外来実習に真剣に取り組めば主要な皮膚疾患のイロハが理解できるはずです。皮膚科学教室のスタッフは、学生に対して極力内容の濃い、レベルの高い臨床実習を提供することを心がけております。しかし皮膚科実習の1週間をいかに有意義なものにするのかは、実は学生であるあなた自身の姿勢にかかっているわけです。

受け身の姿勢でただ黙ってぼんやり実習に出席していても、大きな収穫は期待できません。積極的に私たち皮膚科スタッフに質問し、総合演習などでも積極的に発言して下さい。臨床実習中の1週間はあなたも皮膚科学教室の一員となったつもりで、頑張ってください。皮膚科学教室はリベラルで自由な雰囲気、国際性豊かな臨床教室です。積極的に実習に参加し、有意義かつ楽しく思い出に残るような1週間の皮膚科実習になるよう頑張ってください。

私達教育にあたる皮膚科スタッフは、医学生に対し、世界のどこの皮膚科教室にも負けないような充実したレベルの高い学生教育を提供できるよう、真剣に努力しています。大志を抱き、積極的に実習に参加し、医師としての基本姿勢、ならびに国際レベルの皮膚科サイエンスを学んで欲しいと考えています。

皮膚科臨床実習にあたって

1：実習オリエンテーション

皮膚科実習開始第 1 日目の朝 9 時 00 分から始めます。時間になりましたら下記の Webex 皮膚科講義用アカウントから参加してください。

【アカウント固有 ID】

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

【ミーティング番号（アカウント固有番号）】

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

なお、月曜日が休みの場合、翌日が実習第 1 日目にあたります。時間は厳守して下さい。
これに欠席した学生は実習を受けることはできません。避けられない事情で時間に間に合わない学生は事前に、皮膚科医局（内線 5962: hokudaihifuka@med.hokudai.ac.jp）に連絡して下さい。

2：外来実習

主として 1 診外来（初診外来）で外来実習を行います。皮膚科一般診療、診断の過程、治療法などを理解することを目標とします。さらに初診患者の予診をとることも実習の一環であるので、新患患者の病歴聴取を行い、カルテに整理して記載します。

半数の学生を火曜、もう半数の学生を水曜に割り当てます。外来実習参加時は白衣着用のうえ、10 時までに北大病院皮膚科外来に集合して、1 診のドクターに「臨床実習の学生 ○○です宜しくお願いします」と自己紹介を兼ねて挨拶して下さい。

初回からすぐ、予診をとってもらいます。本書の「6：予診の取り方」については注意深く読んですべて理解した上で、患者さんと接してください。

3：総合演習

臨床写真を用いて、皮膚疾患の鑑別の立て方を学習します。基本スケジュールは火曜 14 時、水曜 14 時と木曜 11 時からです。時間になりましたら、上記の Webex 皮膚科講義用アカウントから参加してください。

4：セミナー

最終日（金曜日：Webex）に行うセミナーでは、自分が興味のある皮膚科関連のテーマについて各自まとめ、スライド 10 枚以内、5 分以内でパワーポイントプレゼンテーションにて発表してもらいます。自分の担当したテーマはもちろんのこと、他の症例に関しても

積極的に質問、発言して下さい。セミナーの内容は初日のオリエンテーションの際に担当スタッフから案内があります。学生がセミナーを行う目的は、学術発表とディスカッションを通し深く学習することの大切さをマスターすることでもあります。あなた自身の能力を高めるためにセミナーを行うわけで、自分自身への挑戦です。

5：皮膚科で重要な用語：

以下の用語は皮膚科で最低限必要な単語です。その意味は教科書を読んで把握して下さい。

1) 皮膚病変の名称

皮疹, 発疹; eruption or rash 紅斑; erythema 紫斑; purpura 白斑; leucoderma 色素斑; pigment fleck 丘疹; papule 結節; nodule 皮膚腫瘍; skin tumor 水疱; blister 小水疱; vesicle 膿疱; pustule 鱗屑; scale 糜爛; erosion 潰瘍; ulcer 亀裂; fissure 痂皮; crust 萎縮; atrophy 苔癬; lichen 苔癬化; lichenification 疱疹; herpes 膿痂疹; impetigo 秕糠疹; pityriasis など

2) 病名

尋常性乾癬; psoriasis vulgaris 尋常性魚鱗癬; ichthyosis vulgaris 湿疹; eczema アトピー性皮膚炎; atopic dermatitis or atopic eczema 尋常性疣贅; verruca vulgaris or common wart 尋常性座瘡; acne vulgaris 尋常性天疱瘡; pemphigus vulgaris 水疱性類天疱瘡 bullous pemphigoid 表皮水疱症; epidermolysis bullosa 眼皮膚白皮症; oculocutaneous albinism など

3) 皮膚病理組織学的用語

角質増殖; hyperkeratosis 不全角化; parakeratosis 表皮肥厚; acanthosis 海綿状態; spongiosis 液状変性; liquefaction degeneration 棘融解; acantholysis など

4) 外来で行う簡単な皮膚科検査法

ダーモスコープ; dermoscopy 硝子圧診; diascopy 皮膚描記症; dermatography 白色皮膚描記症; white dermatographism 皮膚貼付試験; patch test KOH 顕微鏡検査法 (病巣より白癬, カンジダ, ヒゼンダニなどの検出) Tzanck test (ヘルペス感染の有無の検査) など

重要

6：予診のとりかた

外来実習の一環として、初診患者さんの予診をとる作業があります。これは実習とともに皮膚科診療の一部であることを忘れないで下さい。予診をとり終わった予診票は1番の初診診察室に運び、患者さんには待合室で待っているように指示して下さい。予診をとってから診察までにかかる時間は日により異なります。

また紹介状がある場合はその場で開封し読んで下さい。

予診は短時間で要領よく済ませ、なるべく初診外来を実際に見学する時間を長くとるようにして下さい。

主訴 chief complaint (C.C.)

これだけは英語で書いて下さい。難しく考える必要はなく、どんな皮疹がどこにあるかだけを書けばよいわけです。湿疹でも、蕁麻疹でも、白癬でもすべて発疹 eruption としてまとめて結構です。もちろんもう少し自分に自信があれば eruption ではなく tumor あるいは purpura あるいは nodule などという単語を使っても結構です。ただし、どこにあるかだけはきちんと書きましょう。

例； eruption (tumor, erythema, purpura, vesicle, blister) on the face

例えば患者さんが自分でアトピー性皮膚炎を治して欲しいなどと訴えた場合、eruption on the whole body として現病歴に詳しく書きます。もし患者さんが訴えた病名を主訴に使用したい時は、patient said という意味で “ ”マークをつけて、“atopic dermatitis” あるいは “Acne vulgaris” “Tinea pedis” とすることも可能です。ただし主訴に Tinea pedis と書くのは誤りです。なぜなら患者さんが水虫だと言っているとしても、実は湿疹かもしれないからです。

どこに何があるかを正確に主訴の1行に書くことは最も大切なファクターです。たとえば両手に湿疹があった患者が受診したとしましょう。以下の例を見て下さい。

1. eruption on the hand
2. eruption on the both hands
3. eruption on both hands
4. eruption on the hands

さてどれが最も適切な英語でしょうか。正解は4です。手は左右両方ありますから1の英語は主訴として存在しえません。もしあなたがこう書いた場合、初診医はどちらの手を

診察して良いのか分かりません。同様に、 eruption on the cheek, eruption on the arm と主訴に書くことは英語としては誤りです。 eruption on the right hand, eruption on the left arm これなら正しい英語です。2は both の前に the はつかないという基本的な英語の文法に反しているので誤りです。3は文法的には誤りではありません。しかし手はもともと左右2つあるわけです。単に両手にあることを表現するのであれば s をつければ充分です。

皮膚科患者さんのなかには複数の主訴を一度に訴える場合があります。

主訴の項目数は、背景にいくつの疾患が隠れているかを考えて設定してください。

例えば、顔面に痒みを伴う皮疹と両手に痛みを伴う皮疹が出現した患者さんの場合では、

C.C. painful eruption on the face

itchy eruption on the hands

と表記するのは良くありません。この表記ではいくつの疾患によると考えているのかが初診医に伝わらないからです。

顔面と両手の皮疹が一つの疾患によるものだと考えるなら、

C.C. painful eruption on the face and itchy eruption on the hands

もしくは

C.C. eruption on the face and hands

と書くのがよいでしょう。

顔面と両手の皮疹が別の疾患によるものだと考えるなら、

C.C. 1) painful eruption on the face

2) itchy eruption on the hands

のように 1)2)をつけて表記することで二つの疾患概念によるものだとということが初診医に伝わります。この際には現病歴も 1)2)と分けて書くことが必要になります。

皮疹の出現部位が複数ある場合は、それらを全て、および and を用いて列記することが必要ですが、全身ならば on the whole body、体幹ならば on the trunk などを用いて簡潔に記載するのが良いでしょう。

現病歴 present illness(P.I.)

その症状がいつから出現したのかを正確に記して下さい。時系列にそって記載することを心がけましょう。すでに治療を受けている場合、その医療機関の名前、治療内容（薬の名前）などは忘れずに聞いて下さい。

自覚症状の有無は重要です。

予診室で現病歴をとりながらなるべく患者さんの皮疹を自分で診察するように心がけて下さい。常に問題意識を持って予診をとると勉強になります。

また現病歴の最後には、なぜ北大皮膚科を受診したかについて必ず記載しましょう。他

の医療機関からの紹介なのか、他科からの紹介、他科に通院中のため、などさまざまな理由がありますが、これを記述し初診医に伝えることが非常に重要です。

既往歴 past history(P.H.)

一般的な全身疾患の有無、その他のアレルギー性疾患の既往の有無など必要と思われる事項を聞いて下さい。特に重要な事項がない場合は n.p. (nothing particular)と記して下さい。アトピー性皮膚炎などの場合、喘息やアレルギー性鼻炎の既往の有無は重要です。

家族歴 family history(F.H.)

遺伝性疾患では重要なことはいうまでもありません。必要なら家系図も書いてください。アトピー性皮膚炎の場合、アトピー素因がある家族の有無は重要な情報です。特に重要な事項がない場合は n.p.と記して下さい。

その他

特に重要な事項がない場合は

P.H. n.p.

F.H. n.p.

と必ず記載しましょう。P.H.、F.H.を書き忘れると、初診医は家族歴、既往歴に関して予診で聞き忘れていていると考えます。

カルテの一番下、欄外に

imp.) (予想される診断名) (予) (予診を取った学生の氏名)

を必ず書きましょう。予想される診断名は当たらなくてもかまわないので何かしらの疾患名を impression もしくは imp.として記載しましょう。(予)は予診の頭文字で、予診を取った学生の氏名を記載してください。

皮膚科学教室ティーチングスタッフ

皮膚科学ティーチングスタッフ

専門

氏家英之 教授	皮膚免疫学、自己免疫性水疱症、アトピー性皮膚炎
夏賀 健 講師	遺伝性皮膚疾患、水疱症
岩田浩明 診療講師	自己免疫性水疱症、乾癬
柳 輝希 助教	皮膚腫瘍学、角化症
泉 健太郎 助教	自己免疫性水疱症

皮膚科外来表

一診外来

(午前)

専門外来

(午後)

月	担当：氏家英之	
火	担当：岩田浩明	自己免疫性水疱症
水	担当：夏賀 健	アトピー (午前)
木		皮膚外科・乾癬・レーザー・光線
金	担当：柳輝希/泉健太郎	表皮水疱症、魚鱗癬

